

## 正副議長就任記者会見（H 2 7 . 5 . 1 3）

### （清水議長就任挨拶）

この度、各議員のご推挙を賜り、第80代青森県議会議長の重責を担うことになりました清水悦郎でございます。

浅学<sup>せんがくひさい</sup>非才ではありますが、一生懸命まじめさを前面に出して仕事を全うしたいと思っております。

県政の課題では、平成27年度末に北海道新幹線開業を迎える一方、人口減少や少子化、高齢化の進行など社会経済環境の変化に加え、東日本大震災からの創造的復興を加速させるなど直面する課題に迅速かつ適切に対応し、持続可能な地域社会を構築していかなければならないと考えております。

議会運営のために、そして議会改革のために誠心誠意努める所存でございます。

県勢発展のために、そしてまた明るく豊かな青森県づくりのために、微力ではありますが、一生懸命尽くして参りたい、そのように思っております。

よろしく申し上げます。

### （質問）

#### ○記者

議長に就任されまして真っ先に取り組みたいこと、それからどういう議会を目指していきたいか伺います。

#### ○清水議長

議会改革等、そして三村知事中心に財政改革等一生懸命やっているのですが、まだ道半ばだと思っております。

そういう意味で、議会としても真剣に取り組んで参りたいと思っています。

#### ○ 記者

政務活動費の透明性向上について、阿部前議長から申し送りがありました。その件についてはどのように進めていきたいと思っているのか伺います。

#### ○ 清水議長

今日も各会派とお話しをさせていただきましたけれども、慎重にかつまた機動力を持って改革をしていきたい、そのように思っています。

#### ○ 記者

先日、大島さんが衆議院議長に就任されまして、片や県議会議長に清水さんが就任されたということで、ともに八戸市出身ということなのですが、そのことについてどのように思われますか。

#### ○ 清水議長

ちょうど私が市議会議員に初当選したのが昭和58年5月ですね、そしてその年の12月に大島代議士が国会議員に初当選しましてえらい差がついてしまったんですが、大島先生は、32年間国会議員として一生懸命努力をして、そして議長にまで上り詰めたという今後青森県からは出ないであろう不世出の政治家ではなかろうかという意味で、大島先生には是非頑張ってくださいと思っていますし、また名議長になれる方だと思っています。

若干惜しいことは、私どもがいままで一生懸命大島先生からのご指導をいただきながら微に入り細にわたり、アドバイスを受けてきた訳ですが、残念ながら今後あまり会うことが出来ないわけですから、あんまり青森県の仕事が出来ないんじゃないかとその辺を心配しています。

議長の立場もあるでしょうけれども、ふるさとのために一肌脱いでくれるものと期待をいたしております。

大変光栄なことでもある一方、頻繁にアドバイスをしていただけなのが非常に残念だなと思っています。

#### ○記者

さきほど道半ばと話していた議会改革の件ですが、もう少し具体的にお話ししていただきたいのですが。

ご自身も議会検討委員会委員長をやられていて今議長になられたわけですがけれども、政務活動費の問題、改選後に具体的な議論をしていくという部分もあったと思いますが、そのあたりスピードを加速させていきたいとか意気込みがあればお伺いしたいのですが。

#### ○清水議長

もちろん、スピード感をもってやっていきたいと思っています。

#### ○記者

具体的なイメージとかはありますか。

#### ○清水議長

特別なイメージはもっていないんですが、前議長から

引き継いでいかなければならないこともあると思いますので、その辺を精査していきながらやっていかなければならないと思っています。

○ 記者

青森県議会の議長は、これまで任期途中で辞任されるケースが続いておりますが、現時点で清水議長はご自身の任期についてどのように考えていますか。

○ 清水議長

やってみなければわからないですね。精一杯やりたいなと思っています。

○ 記者

4年間、全うされる気持ちですか。

○ 清水議長

その辺は、何ともいえませんね。私も議会では副議長を経験していますが、なかなか議長職・副議長職というのは大変なものでありまして、全力投球したら、結果がどういう形になるかは、身体に聞いてみなければわからないなと思っていました。

私も若ければいいんですが、65歳になりましたから、健康に留意して頑張っていきたいと思っています。

任期は何ともいえません。明日倒れるかもしれませんから。

○ 記者

県議選の1票の格差の問題について伺いたいのです

が。

今回当選された議員で議論されていくと思われませんが、1票の格差とか区割りについてどのような形が公正なのかということ、どう議論して進めていくのか伺いたいのですが。

#### ○ 清水議長

だいぶ前の話になりますが、定数を51から48へ減らした時があったんです。

3議席を削ったわけですが、その後、区割りは思うようにいってないんですけれども、青森県の場合は、1人区がまだ残っていますので、その辺も議論していかなければならないと思っています。

#### ○ 記者

飛び地の問題については、どのように考えていますか。

#### ○ 清水議長

なかなか特殊な飛び地でありますから、歴史もいろいろあると思いますし、難しい問題ではあると思いますが、積極的に議論して参りたいと思っています。

#### ○ 記者

投票率が青森県内低いというのが課題となっていますが、県議選もほぼ横ばいとなっていますが過去最低となっていて、議会と住民との距離感みたいなのが根底にあるみたいなんです。住民に開かれた議会、関わり深い議会などを目指していくような考えはあるのでしょうか。

## ○ 清水議長

投票率の問題は、いろいろな要素があると思いますがけれども、教育の一貫として、政治に対して小さい頃からきちんと取り上げて勉強をする必要があるのではなかろうかと思っています。

ただ18歳になったから、20歳になったから投票権をあげますよというだけではなく、どういう意味で投票権があるのかという、教育の問題が非常に大きいのではなかろうかと思っています。

そういう意味で、小学生・中学生・高校生が教育の一環で投票権の問題を勉強していくのも一つではなかろうかと思っています。

いろいろな要素があると思いますが、そのように考えています。

## ○ 記者

政治をしていくうえで信条としていた言葉とか、座右の銘とかありますか。

## ○ 清水議長

座右の銘は、「信なくば立たず」です。

私が尊敬している政治家は、小泉純一郎です。3年間書生していた縁で今でも尊敬していますし、今の議長になられた大島先生と2人が尊敬する政治家であります。

その小泉純一郎さんに教えてもらったことは、政治家は議員になるのが目的ではなくて、議員になったら何をするのか、そういうことで政治をなさいとだいぶ前に教えられたんですね。

そういうことで、私も議員になったらこういうことを

しようとして目標を定めて議員活動をして参りました。

今回議長の立場になったものですから、青森県議会議長として何が出来るのかきちんと自分の心構えをもって頑張ってお参りたい、そのように思っています。

#### ○ 記者

小泉さんも「信なくば立たず」とよく言ってたかと思うんですが。

#### ○ 清水議長

福田赳夫先生も「信なくば立たず」、三木武夫先生も「信なくば立たず」と言っていました。

やはり国民とのあるいは県民・市民との信頼関係がなければ、政治はやっていけないということで、非常に意味が広い、言葉は優しいんですが非常に深い意味のある言葉ではなかろうかと思っています。

#### ○ 記者

先ほど議場で挨拶されたときに、平和のことに触れられていたんですが、そのことを県政にどのように実践してきたのか、また議長としてどのように実践していくのか伺います。

#### ○ 清水議長

先ほど議場でお話しましたが、自分の政治家になる志は、遺骨収集をしたことが最大のきっかけでした。

そのことがあり、ぜひ政治をやってみたいということで取り組んで参りました。

その中で、政治家になるには何が必要かと考えました。

それは政治家の秘書ですね。いろんな勉強をした方が手っ取り早いということで、小泉先生の門をたたいて政治のイロハを勉強させていただきました。

小泉先生はどちらかというところタカ派的な発言が多かったわけですが、後々よく考えてみましたら、小泉先生の周辺には、特攻隊に志願していった方々が多く集まっています。

お父さんの小泉純也先生は、鹿児島県出身で知覧のすぐそばなんですね。

戦争で若い人達が命を落とした、そういう環境が身近にあったんですね。

ですから平和を非常に意識して政治に取り組んでいった、命をかけて政治をしてきた。

それを目の当たりにして私も勉強させていただいて、平和についてこれからも取り組んで参りたいなと思い発言しました。

## ○記者

県民に開かれた議会にしていくということについて、議長として意気込みをお願いしたいのですが。

## ○清水議長

4年前の3.11に東日本大震災があった時、私は、宣伝カーを使わなかったんですね。

なぜ使わなかったかということ、使うような状況ではなかったということです。

地震と津波で1階が全部何も無くなってしまって、地震・津波の後始末をしている方々がいました。

その方々は、私どもが街頭に出ていくと「何しに来た



んだ。街頭で政策を訴える時間があったら、災害の後始末を手伝え。」とそれくらいの状況だったんですね。

じゃあ私どもは、自ら宣伝カーを使うのを自粛しようということで議員団・市議団も自ら止めたんですね。

今回も、応援してくれた県議さん、市議会議員さんのおよそ半分ぐらいの人が、それに協力してくれたんですね。

非常にありがたいことだと思ってました。

それで、小さなマイクで該当で政策を訴えるのがいいのではないかと、そういう話をしたんですね。

国会議員は選挙区が広いですからかなり大きなマイクで遊説しますけれども、私どもはやはり市民から選ばれた地域の皆さんの代表でありますから、そんなに大げさにしなくても、自分の意見が伝わるのではないかと、そういうことで、今回、宣伝カーを使わなかったんですね。

使った人と使わなかった人でどう影響が出たのかというと、あまり影響がなかったような感じがします。

私は、そういうところから政治家が身を正していかなければならないと思っています。

宣伝カーを出すにはお金がかかります。よく連呼するとウグイス嬢さんもおかかります。私は、そういうものを見直ししていくのが選挙改革ではないかと思っています。

そういう身近なところからやっていきたいという気持ちでいっぱいです。

## ○記者

趣味と家族構成を教えてください。

○ 清水 議長

趣味は、アマチュアレスリング、あとはソフトボール、  
あところ10年やっていますが、館鼻岸壁での毎週日曜  
日の朝一番の散策です。

家族は、妻と母の3人で暮らしています。

息子と娘が所帯を持っています。

以上です。

## （工藤副議長就任挨拶）

この度、議員各位のご推挙によりまして、第78代副議長の重責を担うことになりました西津軽郡選出の工藤兼光でございます。

誠に身に余る光栄であり、感謝にたえないところであります。

昨今の本県の経済・雇用情勢には、改善の兆しがみられるものでありますが、なお一層青森県発展のため一生懸命努めてまいる所存でございます。

幸いにいたしまして、議会経験豊富な清水議長のもと、県民の方々にわかりやすい議会運営に努めて参りたいと思います。

皆様方の温かいご支援、ご協力を心からお願い申し上げます。

## （質問）

### ○記者

県民の方にわかりやすい議会運営というのは、具体的にどのような運営を目指していこうとしているのですか。

### ○工藤副議長

私にとっては議員の方々が何をしているのか。

たとえば無投票で当選している方々は何をしているのでしょうかと、いろいろな人にお話を聞かれます。

そこで、私たち県議会議員は理事者のチェック機関でありますけれども、やはり広く県民の声を吸い上げ、そして議員の方達や会派の方達と話をしながら、そのことを県民にお伝えしていくということであると思っています。

ます。

○記者

青森県議会正副議長とも任期途中で辞任されるケースが、これまで歴代続いてきているかと思いますが、現時点で副議長ご自身は、任期についてどのように考えていますか。

○工藤副議長

私は、任期4年だと思っています。

○記者

政務活動費等いろいろな懸案事項・検討事項が今後もあると思いますが、副議長としてこういった形で議長をサポートしていくのか、その意気込みを伺いたいのですが。

○工藤副議長

まだ、前副議長から引継ぎも受けていないこともあり、これから清水議長の指示・ご指導をいただきながら、進めていきたいと思っています。

○記者

政治を志したきっかけと、これまで町議・県議として活動してきた中で特に印象に残っている出来事を教えてください。

○工藤副議長

私は、だいぶ年輪を刻みまして、戦争当時に生まれて、そして食えるか食えないかそういうぎりぎりの生活で

ありました。

私は、農家として稲作等々を行っていました。

詳しい内容については話せませんが、私は、公平公正に進んでいない部分があるのではないかと感じていました。

そういうどん底の時代でありましたので、発言する場もないという中で来たことから政治を志すこととしたものです。

印象に残っていることは、当時、鰯ヶ沢町においては、昭和58年に七里長浜港が着工されまして、齋藤禮次郎町長共々、これからは当時の津軽28市町村の海の玄関として栄えていかなければならないと話しておりました。

そして、そこに5カ国の同時通訳で会議が出来る「日本海拠点館」を建設したりしておりました。

しかし、時代が変わって大変な時期になって、今の人たちはあんな大きな建物をつくるべきではないと結果論で言ってますけども、私は昭和58年当時としてはすばらしい構想ではなかったかと思っています。

## ○記者

政治家としての座右の銘・信条があれば教えてください。

## ○工藤副議長

出来ることは、明日に延ばすなということ。

すぐ対応し、すぐ意見を言うというのが私たち議員としての立場ではなかろうかと思っています。

○ 記者

今までにすぐに対応してきたことは、具体的に何かありますか。

○ 工藤副議長

昨年、赤石川において、大水による水害があり、いろいろ大変でした。中村川でもありました。

県の県民局や地域の出先機関など一生懸命頑張っているのは、私も見ていました。

でも、被害を受けた箇所が多いので、見落とした部分もありました。

赤石川の目内崎地区の川岸では、流れが大きく変わって、道路半分まで流されていたのですが、草が被さっていたので見落としていたということで、私が4時頃、話を聞いて出先機関に行きました。

そしたら、その出先機関の方達もその足で現場に見に行ってくれて、「これは大変だ。よく話を届けてくれた。」と言っていたというのが一番の短い期間での対応でありました。

○ 記者

政治を志した件についてですが、稲作農家をやっていろいろな農政だったり政治に不満があってということでしょうか。

○ 工藤副議長

詳しい内容については言えないです。

○ 記者

思いとしてはそういうことですか。

○ 工藤副議長

そうです。

○ 記者

議会改革についてですが、副議長から見て今の議会で足りない点、どうやって取り組んでいかなければならないと思っているのでしょうか。

○ 工藤副議長

先ほども申しましたが、今日、副議長になったばかりですので、前議長・副議長の意見を聞いた上で、今の清水議長のもとで進めていきたいと思っています。

○ 記者

趣味と家族構成を教えてください。

○ 工藤副議長

趣味は、歌を歌うことです。家族は、妻と長男とその嫁と孫とあわせて6人です。

○ 記者

好きな歌手とか歌とかありますか。

○ 工藤副議長

井沢八郎さんの「ああ上野駅」。

○ 記者

ご自身でも歌われるのですか。

○ 工藤副議長

そうです。

以上です。